

平成 26 年度 全国学力・学習状況調査の

逗子市の結果について

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

(2) 調査の対象

逗子市立小学校第 6 学年児童	4 4 9 名
逗子市立中学校第 3 学年生徒	3 9 2 名



(3) 調査の内容

①教科に関する調査（国語，算数・数学）

- ・主として「知識」に関する問題
- ・主として「活用」に関する問題
- ・国語 A，算数・数学 A：主として「知識」に関する問題を中心とした出題
- ・国語 B，算数・数学 B：主として「活用」に関する問題を中心とした出題

②質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

(4) 調査の方式 悉皆調査

(5) 調査日時 平成 2 6 年 4 月 2 2 日（月）

(6) 調査結果の分析にあたって留意したこと

本調査の結果から見てとれることとして、次のような点に留意して分析

を行った。

- ①実施教科が「国語」「算数・数学」の2教科であり、学習指導要領のすべてを網羅するものではないことから、児童生徒が身につけるべき学力の特定一部であること。
- ②年度により問題の質が異なるため、経年変化の状況のみから学力の向上・低下の傾向を容易に評価することは難しいこと。

(6) 調査結果(正答率)

(小学校)

教科	逗子市正答率	神奈川県正答率	全国正答率
国語 A	70.0 %	71.3 %	72.9 %
国語 B	53.6 %	54.6 %	55.5 %
算数 A	76.6 %	76.9 %	78.1 %
算数 B	56.8 %	58.6 %	59.2 %

(中学校)

教科	逗子市正答率	神奈川県正答率	全国正答率
国語 A	78.2 %	79.2 %	79.4 %
国語 B	50.3 %	51.5 %	51.0 %
数学 A	70.6 %	67.0 %	67.4 %
数学 B	60.7 %	60.8 %	59.8 %

平成26年度全国学力・学習状況調査の結果の分析

<中学校・国語>

1. 調査結果の概要及び教科の課題等 (○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等)

<p>国語</p> <p>結果の概要</p>	<p>国語A「主として知識に関する問題」の正答率は8割近く、ほとんどの生徒は知識が定着していると思われる。一方、国語B「主として活用に関する問題」の正答率は5割程度で、課題があると言える。正答率を県平均、全国平均と比較してみると、国語A、国語Bとも若干下回る結果であった。</p> <p>領域別で見ると、「読むこと」の正答率については、県平均、全国平均を上回る設問が多く、成果と言える。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」のうち、漢字の読みは7割以上の正答率だったが、書きは7割以下で課題が残る。また、古典の設問の正答率が県平均、全国平均に比べて2～4%前後低く、無回答率も若干高いことから、古典学習への対応が必要である。</p> <p>また、記述式の設問は今回3問あったが、どれも正答率は5割を超えておらず、これも今後の課題と言える。</p>
<p>話すこと 聞くこと</p>	<p>○「目的に応じて、資料を効果的に活用して話すこと」については、8割程度の生徒が正答している。県平均、全国平均と比べても若干上回る結果であった。【A1 一】</p> <p>●「必要に応じて質問し、足りない情報を聞き出すこと」の正答率は、県平均、全国平均より5%以上低かった。【A1 二】</p> <p>●「目的に沿って話し合い、互いの発言を検討すること」については、5割程度の生徒しか正答しておらず、課題である。【A6 一】</p>
<p>書くこと</p>	<p>○「心情が相手に効果的に伝わるように、描写を工夫して書き加えること」【A2 一】、「集めた材料を分類するなどして整理すること」【A4 一】については、9割以上の生徒が正答しており、一定の成果と言える。</p> <p>●「多様な方法で材料を集めながら考えをまとめること」については、8割以上の生徒が正答してはいたが、正答率は県平均、全国平均より2～3%低かった。【A7 一】</p>
<p>読むこと</p>	<p>○「登場人物の言動の意味を考え、内容を理解すること」【A3 三】、「抽象的な概念を表す語句が示すものについて理解すること」【A5 一】については、いずれも8割以上の生徒が正答しており、県平均、全国平均より3%程度上回っていた。</p> <p>●「文章に表れているものの見方について、自分の考えをもつこと」については、5割程度の生徒しか正答しておらず、県平均、全国平均より5～6%程度低かった。【B1 二】</p>
<p>伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項</p>	<p>○「文脈に即して漢字を正しく読むこと」については、3問とも7割以上の生徒が正答しており、特に『挑む』は9割以上の生徒が正答していた。【A8 二 1～3】</p> <p>●「文脈に即して漢字を正しく書くこと」については、3問とも7割以下の正答率で、特に『招待』の正答率は5割に満たなかった。【A8 一 1～3】</p> <p>●「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むこと」の正答率は、県平均、全国平均より2～4%低かった。また、無答率は県平均、全国平均より2%前後高かった。【A8 五 1】</p> <p>●「古典と昔話とを対応させて内容を捉えること」の正答率は、県平均、全国平均より3%前後低かった。また、無答率は県平均、全国平均より2%以上高かった。【A8 五 2】</p>

2. 今後の指導改善に向けて

生徒質問紙から国語に関する設問の結果で課題と考えられるのは、「国語の勉強は好きですか」で肯定的な回答をした生徒のパーセンテージが、本市の場合は神奈川県や全国より5%以上低いことである。さらに、「国語の授業の内容はよく分かりますか」の場合は、肯定的な回答は県および全国より10%以上低い結果となっている。授業内容が分からなければ、国語の勉強を好きになることは難しい。国語の勉強が好きであれば、国語の学習に興味、関心を持って取り組み、知識の定着や活用を図ることにつながりやすいので、生徒にとって「分かる授業」となるよう教師側のより一層の工夫と、それを支えるシステム構築が引き続き必要である。

領域ごとの改善点については、以下に列挙する。

<話すこと・聞くこと>

- * 複数の案から一つに絞り込む話し合いを行う際には、目的に応じて発言を整理しながら、議論の焦点を明確にする必要がある。図表を用いるなどして、共通点や相違点などを様々な観点に沿って発言を整理する学習活動が有効である。その際、どのような観点を整理するかを明確にし、どのような図表を活用するのが有効かを考えることが大切である。
- * 話し合いをする際には、参加者全員がその目的を理解し、話し合いがまとまるように見通しをもって発言する必要がある。そのためには、司会が目的に応じて話し合いの方向性を適切に捉え、結論に至るまでに踏むべき段階を参加者と確認することが重要である。また、学校生活における話し合いの中でも、見通しをもったり、話し合いの進行が適切であったかを振り返ったりする場面を設定することが有効である。

<書くこと>

- * 鑑賞したことを文章に書く際には、作品の表現の仕方や作者の思い、作品から受けた印象などについて、多様な方法で材料を集め、目的や意図に応じて分類、整理しながら選択するように指導することが大切である。

<読むこと>

- * 短い言葉で表されている標語などを読む際には、作者のメッセージを豊かに想像することが求められる。その際、書かれている内容を捉えるとともに、自分の知識や体験などを想起しながら作者の思いを考えることが大切である。

<伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項>

- * 漢字を書くことの指導においては、機械的な反復練習ではなく、漢字の字形や画数、読みや意味などの基本的な事項を確実に指導し、漢字に対する生徒の興味、関心を高める必要がある。また、パソコンや携帯電話等の普及により、生徒が漢字を書く場面は以前に比べ減っていることが想定されるので、漢字を日常的に書く場面設定を意図的に行うことが大切である。
- * 古典の学習の際には、音読や朗読を通して文語独特の魅力に気づかせるとともに、現代語訳を読んで内容を理解し、古典の文章に表れたものの見方や考え方に触れ、生徒の興味、関心を喚起することが大切である。

最後に、記述式の設問の正答率が低かったことについてだが、生徒質問紙で、「今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありました。最後まで解答を書こうと努力しましたか」という設問に、「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答した割合は、本市の場合6割以下だったが、県や全国は7割程度だった。「書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあつた」が、本市では3割を超えている。「書く問題は全く解答しなかった」は、いずれも5%前後なので、本市の生徒は、記述式の設問に取り組もうとしたものの、途中で諦めた傾向が高かったものと思われる。限られた時間内に、文章の内容を的確に読みとったうえで、そのことに対する自分の考えを根拠を明確にして書く学習活動を、普段から数多く設定していくことが必要である。

平成26年度全国学力・学習状況調査の結果の分析

＜中学校・数学＞

1. 調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

<p>数学</p> <p>結果の概要</p>	<p>数学 A「主として知識に関する問題」、数学 B「主として活用に関する問題」各問題とも平均正答率は県・全国とほぼ変わらない数値であった。数学 B の正答率は数学 A に比べ、全国傾向と同様に低い結果であったが、前回ほどの差は見られなかった。</p> <p>正答数の相関では、数学 A は平均以上かつ数学 B は平均未満の生徒の割合が低く、数学 A は平均未満かつ数学 B は平均以上の生徒の割合が高いという結果が見られた点が特徴的であった。</p>
<p>数と式</p>	<p>○数量を文字式で表すこと、単項式どうしの除法の計算ができること、正と負の数の意味を、実生活の場面に結び付けて理解していること【A1(4)、A2(2)、A2(4)】について9割を超える高い正答率であった。</p> <p>○簡単な連立二元一次方程式を解くこと【A3(4)】については、正答率は7割程度であるが、全国・県の結果に比べ、高い正答率であった。</p> <p>●数量の大小関係を不等式に表すこと【A2(1)】と予想された事柄が成り立たない事を判断し、その事柄が成り立たない理由を説明すること【B2(3)】について正答率が低く課題である。</p>
<p>図形</p>	<p>○対称軸が与えられたときに、線対称な図形を完成すること【A4(1)】日常的な事象を表した図を観察し、空間における位置に関する情報を適切に読み取ること【B1(2)】について共に9割を超える高い正答率であった。</p> <p>○図形の性質を、構想を立てて証明すること【B4(1)】については、正答率は高くはないが、全国・県の結果を大きく上回っていた。</p> <p>●図形の回転移動について、移動前と移動後のふたつの図形の辺や角の対応を読み取ること【A4(3)】、底面が合同で高さが等しい円柱と円錐の体積の関係について理解すること【A5(4)】について、正答率が4割前後と低く、課題であると考えられる。</p> <p>●付加された条件の下で、証明を振り返って考え、事柄を用いること【B4(2)】の正答率は県・全国の結果より若干高いものの3割を切る結果となった。新たに付加された条件を理解して用いることに課題があるとみられる。</p>
<p>関数</p>	<p>○一次関数 $y=ax+b$ について a と b の値とグラフの特徴を関連付けて理解すること【A11(2)】与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ること【B3(1)】について、ともに8割前後の高い正答率であった。</p> <p>●関数の意味を理解すること【A9】と、反比例について、グラフと表を関連づけて理解すること【A10(4)】について、正答率がともに4割程度と低く、特に【A10(4)】は、国・県の結果よりも低い正答率であった。</p> <p>●グラフの特徴を事象に即して解釈し、結果を改善して問題を解決する方法を証明すること【B6(3)】について3割を切る正答率で、課題があるとみられる。</p>
<p>資料の活用</p>	<p>○確率の意味を理解していること【A14(1)】について、この領域では最も正答率が高かった。</p> <p>○樹形図などを利用して、確率を求めること【A14(2)】は7割程度の正答率であるが、県・全国の結果に比べて正答率が若干高かった。</p> <p>●不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明すること【B5(2)】について、正答率が低く、課題であると言える。</p> <p>●ヒストグラムにおいて、中央値の意味を理解していること【A13(2)】について、正答率が4割程度であり、県・全国の結果に比べても低い正答率であった。</p>

2. 今後の指導改善に向けて(具体的な取り組み・予定も含む)

数学Aにおいて主に課題となる点から、すべての領域について、基礎的・基本的内容の確かな習得をはかることが望まれる。また、数学Bの結果から、基礎的・基本的内容を理解したうえで、自分の考えを「説明する力」に課題がみられることがわかった。日常の学習において、数学的に説明したり、表現したりする活動をより一層充実させることが望まれる。また、図形分野においては視覚的に捉えたり、体験を通して理解する活動を充実させることで、実感をもって基礎・基本を習得することができると考えられる。

領域ごとの具体的な学習指導としては、以下に列挙する。

<数と式>

- *数量の大小関係を不等式に表す事ができるようにするために、事象において比べようとする数量に着目し、それらを数や文字を用いた式で表し、不等号を用いて数量の大小関係を適切に表す事ができるように指導する。

<図形>

- *柱体と錐体の体積の違いを実感を持って理解できるようにするためには、柱体の体積と錐体の体積との関係を予想し、その予想が正しいかどうかを、模型を用いた実験による測定を行って確かめる活動を通して、柱体と錐体の体積の関係を実感を持って理解できるように指導する。
- *図形の回転移動について、移動前と移動後のふたつの図形の関係を捉える事ができるようにするために、ある図形がきまりにしたがって移動している事を視覚的に捉えたり、図形の移動の性質を見出したりする活動を通して、移動前と移動後の二つの図形の関係を捉えられるように指導する。
- *証明の過程や結論を基に、発展的に考えることができるようにするために、与えられた性質を証明するだけでなく、条件を変えたり、新たな性質を見出すことができるように指導することが大切である。与えられた問題に条件を付加することで、発展的に考える機会を設けたり、解き方として付加された条件に合わせて図を書き直すなどの活動を取り入れることが考えられる。

<関数>

- *様々な事象の考察を通して、関数の意味を理解できるようにするためには、日常的な事象の中にある二つの数量の変化や対応の様子を調べ、それらの関係を見出す活動を通して、関数の意味を理解できるように指導することが大切である。その際、独立変数(○)と従属変数(△)との違いを意識して「△は○の関数である」という形で表現できるように指導することも大切である。
- *反比例について、表、式、グラフなどを関連付けて理解できるようにするために、反比例の特徴を、表、式、グラフを相互に関連付けて理解できるように指導することや、その際、表やグラフから比例定数を読み取って式に表したり、比例定数の符号や絶対値の違いにより変化の様子の違いを捉えたりする活動を取り入れることが考えられる。
- *問題解決のために数学を活用する方法を考え、説明する力をつけるために、問題解決の方法に焦点を当て、何をどのように用いればよいかを明らかにできるように指導することが大切である。その際、表、式、グラフなどの「用いるもの」とその「使い方」について説明する場面を設定することが考えられる。

<資料の活用>

- *代表値の必要性和意味について理解できるようにするために、目的に応じてデータを収集して整理し、資料を代表する値について考察しながら資料の傾向を読み取る活動を通して、代表値の必要性和意味について理解できるように指導することが大切である。
- *判断の理由を数学的な表現を用いて的確に説明する力をつけるために、不確定な事象の起こりやすさを判断し、その理由を説明できるようにすることが大切である。その際、説明すべき事柄とその根拠の両方を示し、確立を用いて的確に説明する場面を設定することが考えられる。

質問紙調査から（中学校）

中学校の質問紙は全問からなっており、多くの質問が「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」4件法での回答でした。

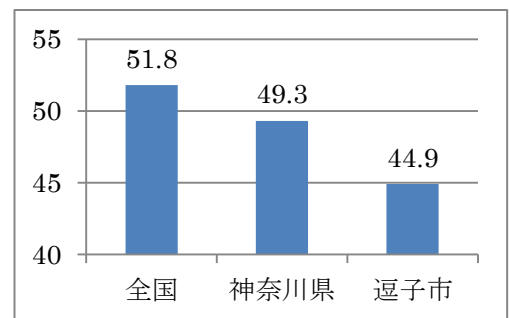
「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を肯定的な回答、「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」を否定的な回答として大きなくくりとしてとらえた場合、全国・神奈川県と本市との間に有意な差（±5%以上）が見られるものはありませんでした。

「あてはまる」の回答のみに注目してみると、全国・神奈川県と本市との間に有意な差があるものが見られた質問がありました。（グラフの数字は% スケールは見やすいように質問ごとに変わっています）

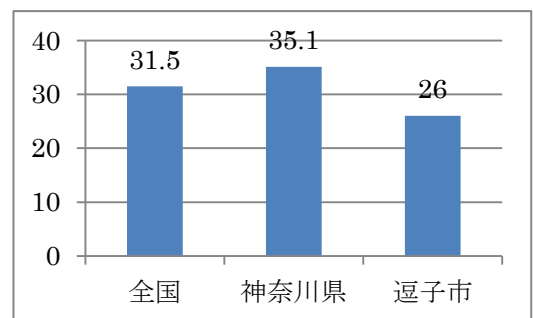
「朝食を食べていますか」「毎日同じくらいの時間に起きていますか・寝ていますか」など生活習慣を問う質問の回答は全国や県とほぼ同じでした。

- (9) 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか。

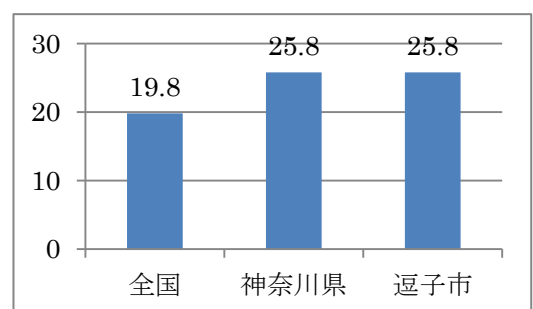
(9)からは、友達とのコミュニケーションについて、話を最後まで聞くと回答した割合が低いことがわかります。



- (11) 普段（月曜日～金曜日）1日あたりどれくらいの時間テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりしていますか。（3時間以上と回答した割合）

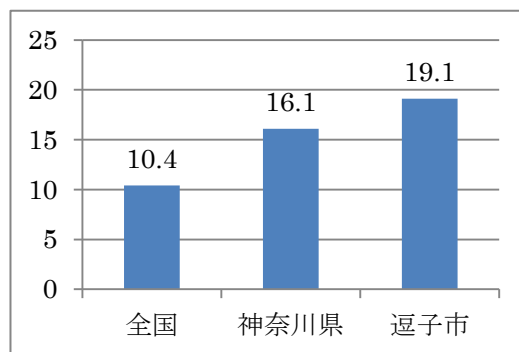


- (13) 普段（月曜日～金曜日）1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。（ゲーム等を除く・3時間以上と回答した割合）

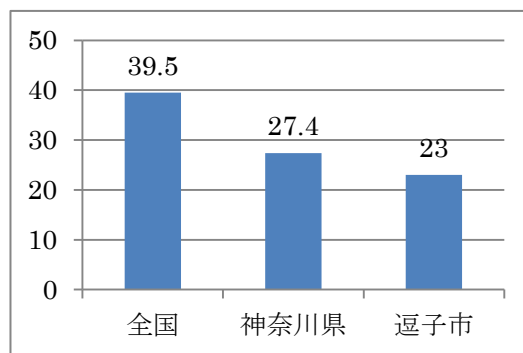


(11)(13)からは、テレビやビデオ、DVDなどを視聴する生徒の割合が全国や神奈川県と比較してメールやインターネット等に費やす時間が多い生徒の割合が高いことがわかります。

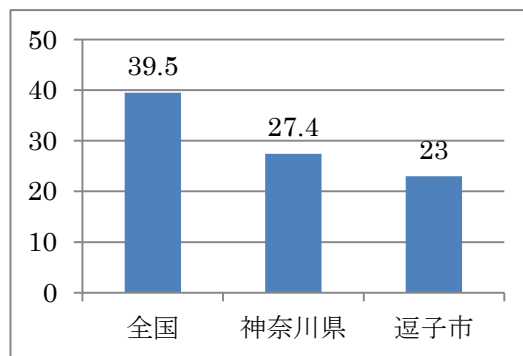
(14) 学校の授業時間以外に普段（月曜日～金曜日）1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか。
(学習塾や家庭教師も含む・3時間以上と回答した割合)



(16) 学習塾（家庭教師を含む）で勉強をしていますか。
(学習塾に通っていない割合)

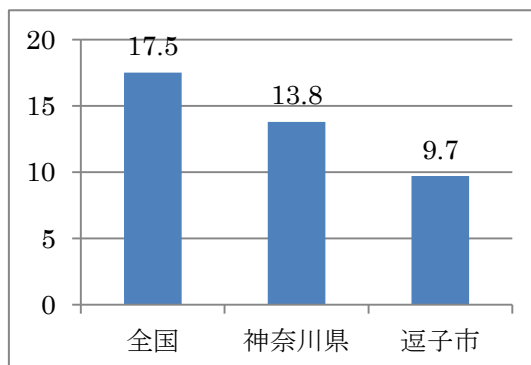


(22) 家で学校の宿題をしていますか

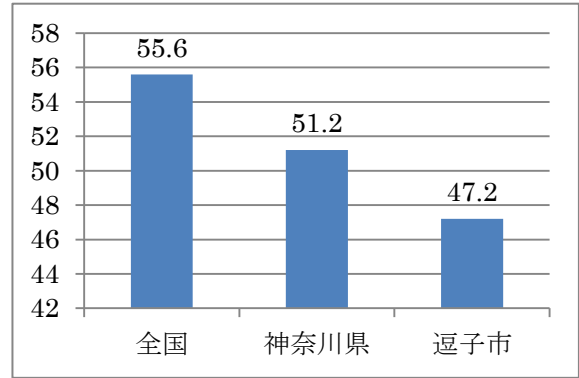


(24) 家で学校の授業の復習をしていますか。

(14)(16)(22)(24)からは、本市の生徒は、塾等に通っている割合が高く、塾等での学習が家庭での学習時間の大きな部分を占めていることがわかります。

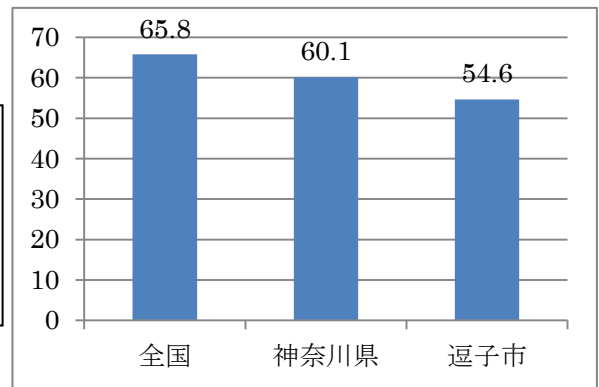


(34) 学校の決まりを守っていますか。



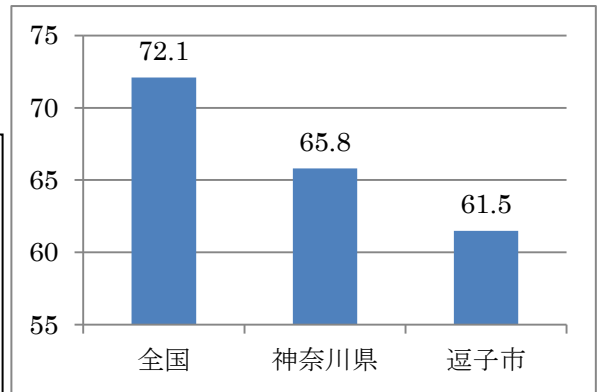
(35) 友達との約束を守っていますか。

(34)(35)は、生徒の規範意識を問うものですが、グラフのスケールで全国・県との差が大きく見えます。本市の生徒が、自分自身に行動等に厳しい評価をしているとも考えられます。



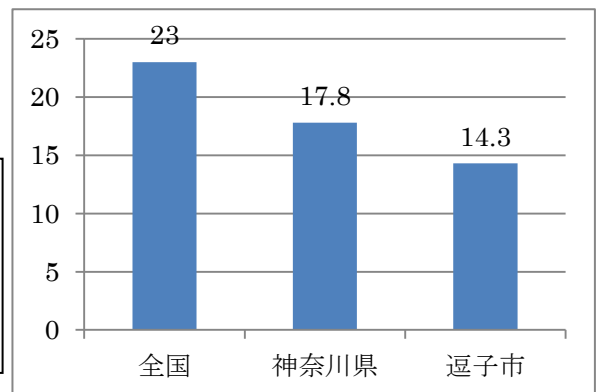
(37) いじめはどんなことがあってもいけないことだと思いますか。

(37)は、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を合計した割合は全国・県と本市はあまり差がありませんが「あてはまる」のみに注目してみるとグラフのようになります。いじめに対する学校・家庭の教育・指導について一考が必要です。

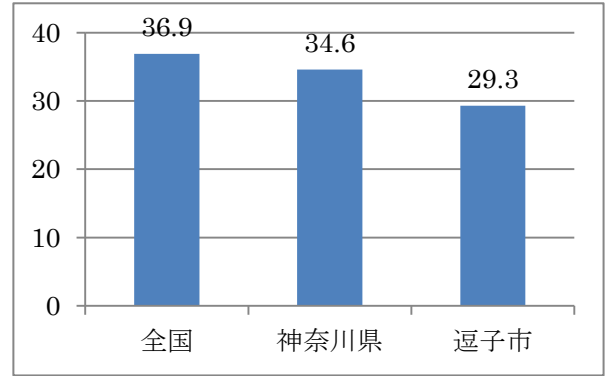


(39) 総合的な学習の時間の授業で学習したことは普段の生活や社会に出た時に役にたつと思いますか。

(39)総合的な学習の時間は、小学校から取り組んでいますが、学習の内容や構成、取り組み姿勢などについて生徒に実際の社会や生活に関連づけて説明することなどが必要です。

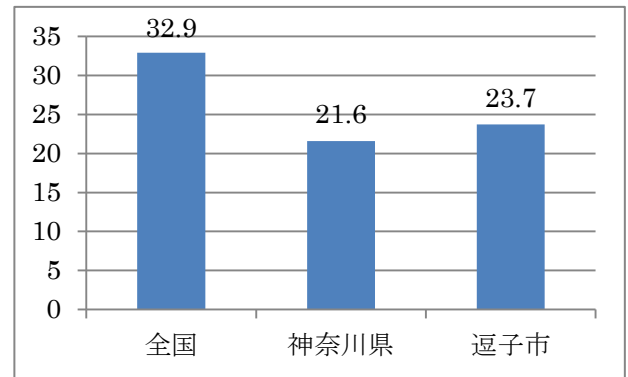


(42) 1・2年の時に受けた授業では自分の考えを
発表する機会が与えられていたと思いますか。



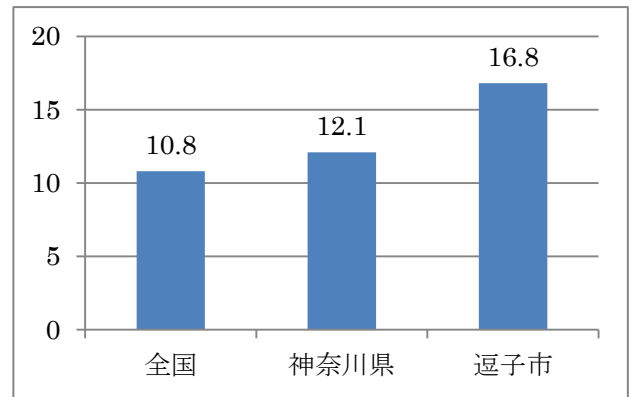
(44) 1・2年の時受けた授業の初めに、目標
(めあて・ねらい)が示されていたと思
いますか

(42)(44)について、学校では「言語活動の充実」に
ついて意識して取り組んでいますが、生徒には必
ずしも伝わっているとは言えない状況です。授業
の目的や目標などを説明し、どのように授業に取り
組むのかなどについて生徒が理解できるように
することが必要です。

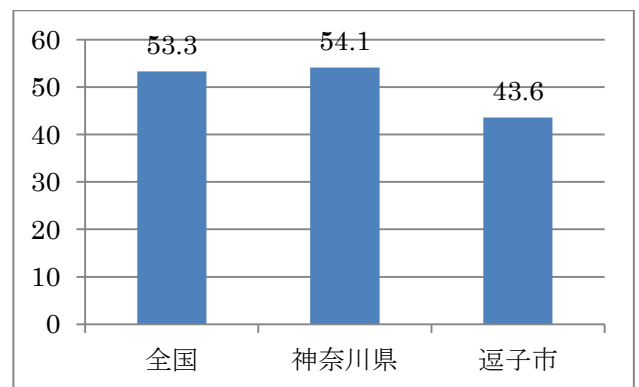


(49) 授業の中でわからないことがあったら、どう
することが多いですか。
(その場で先生に尋ねると回答した割合)

(49)では、授業中わからないことがあったら身近な
先生に尋ねるといことが比較的高い割合です。

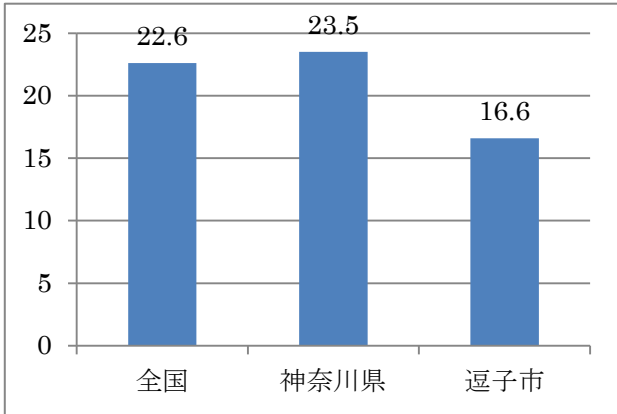


(51) 国語の授業は大切だと思いますか。



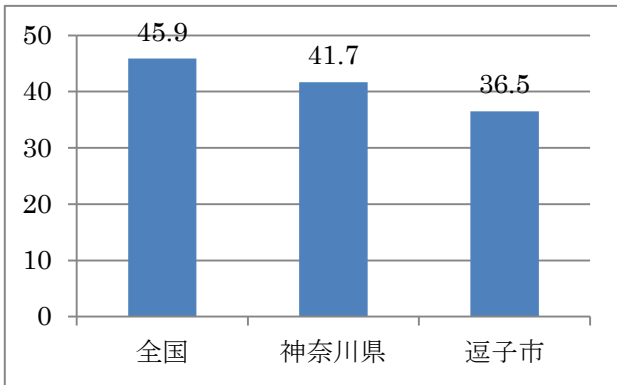
(52) 国語の授業の内容はよくわかりますか

(51)(52)からは、国語の授業についての生徒の思いが見て取れます。国語の授業の有用性については低い数値にとどまっています。今後の指導のあり方を検討する必要があります。



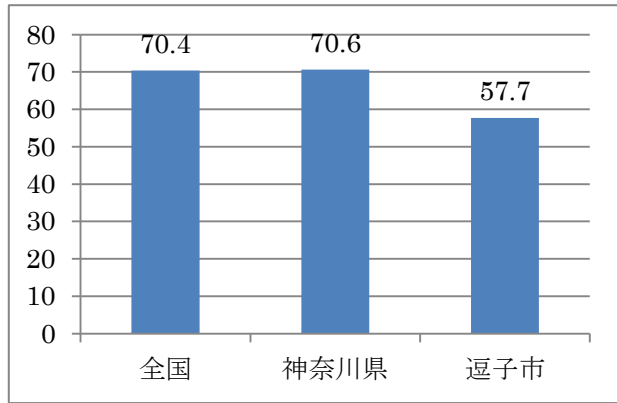
(53) 読書は好きですか。

(53)からは、(11)(13)でメールやインターネットに割く時間が多いことに触れましたが読書の時間は少ない傾向にあります。

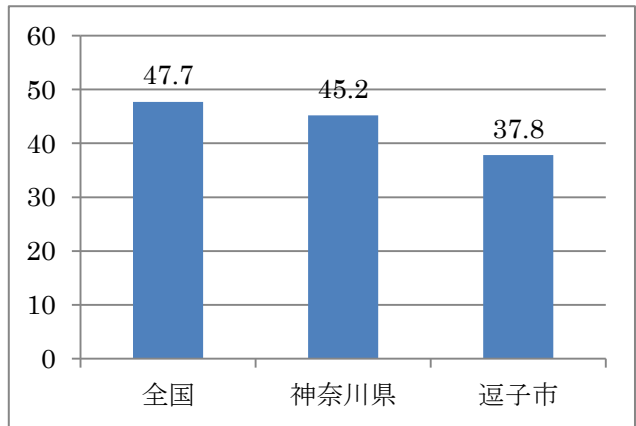


(59) 今回の国語の問題で解答を文章で書く問題がありました。最後まで書こうと努力しましたか。

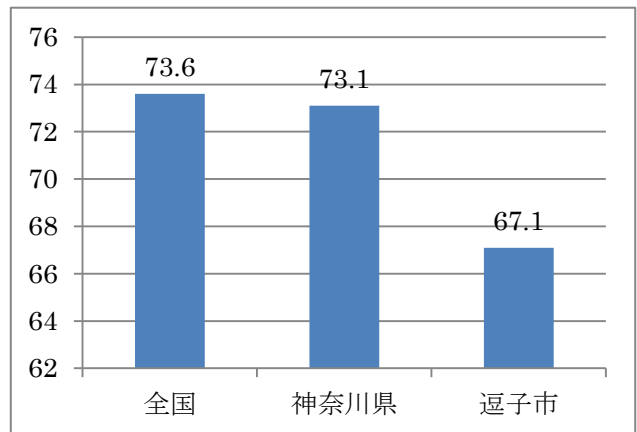
(59)からは、教科の国語の分析にもあるように、書くことに対して課題があるようです。書くことについて学校の授業の中でも充実を図ることが必要です。



(63) 数学の勉強は大切だと思いますか。



(65)数学ができるようになりたいですか。



(68)数学の授業で学習したことは、将来社会に出た時に役に立つと思いますか。

(63)(65)(68)からは、数学の授業についての生徒の思いが見て取れます。数学の授業の有用性についても低い数値にとどまっています。生活の場面で生きて働く知識として必要であることをもっと実感できるような授業のあり方を考える必要があります。

